

# 国民学校「初等科国語」五～八の 墨塗り教科書の実情について

菅 修 一

## 1. 本稿の目的

日本敗戦後の墨塗り教科書について、筆者は既に二つの論文<sup>(1)(2)</sup>で報告した。取り上げた教科書は、国民学校の唱歌・習字・図画、中学校の国語、高等女学校の家事に関する教科書であった。本稿の目的は次の通り。

- (1) 国民学校「初等科国語」五・六・七・八の墨塗り教科書について、現物の削除または修正の実際<sup>(1)</sup>の状況を調査・報告すること。
- (2) 1 から帰結されること。

## 2. 国民学校の国語教科書

### (1) 国民学校

国民学校とは昭和 16 (1941) 年 4 月から昭和 22 (1947) 年 3 月までのわが国初等教育機関の名称である。昭和 16 (1941) 年 3 月 1 日公布 (同年 4 月 1 日施行) の国民学校令<sup>(3)</sup>により従前の小学校を改めて成立した。初等科 (修業年限 6 年)、高等科 (修業年限 2 年) から成り立っていた (国民学校令第 2 条、第 3 条)。

### (2) 国民学校国民科の国語

国民学校 において国語は国民科という教科を構成する一つの科目として位置付けられた。国民科を構成する科目は国語の他に修身、国史、地理があった (国民学校令第 4 条)。

国民科は「我が国ノ道德、言語、歴史、国土国勢等ニ付テ習得セシメ特ニ国体ノ精華ヲ明ニシテ国民精神ヲ涵養シ皇国ノ使命ヲ自覚セシムルヲ以テ要旨トス…」

(国民学校令施行規則第2条)と定められた<sup>(4)</sup>。

国語については「国民科国語ハ日常ノ国語ヲ習得セシメ其ノ理會力ト發表力トヲ養ヒ国民的思考感動ヲ通ジテ国民精神ヲ涵養スルモトス…」(国民学校令施行規則第4条)と定められた。

国民学校国語教科書は井上越課長を筆頭に石森延男、倉野憲司、松田武夫の4名の図書監修官が編集にあたった<sup>(5)</sup>。加えて、軍部が大きな影響力を行使している。陸軍は文部省に「国民学校教科書ニ対スル陸軍要望事項」を送付し、陸軍總監部付佐官数名を文部省囑託名義で教科書を編纂していた文部省図書局に送り込んでいる。井上越課長は教科書作りへの軍部の介入、それへの教科書編纂担当者としての抵抗について証言している<sup>(7)</sup>。

国民学校初等科の国語教科書を学年ごとに記すと次の通りである。

- ・第一学年：ヨミカタ一、ヨミカタ二、コトバノオケイコ一、コトバノオケイコ二
- ・第二学年：よみかた三、よみかた四、ことばのおけいこ三、ことばのおけいこ四
- ・第三学年：初等科国語一、初等科国語二
- ・第四学年：初等科国語三、初等科国語四
- ・第五学年：初等科国語五、初等科国語六
- ・第六学年：初等科国語七、初等科国語八

### 3. 墨塗りについての二つの文部省通牒

#### (1) 昭和20年9月20日文部次官通牒「終戦ニ伴フ教科用図書取扱方ニ関スル件」

本通牒<sup>(8)</sup>(以下、第1回指令と記す)の概略を説明すると次の通りになる。

国民学校、中等学校及び青年学校の教科書は終戦後も継続使用するが「戦争終結ニ関スル詔書」の意図するところに対応して、削除または取扱上注意すべき基準が示された。即ち、次の5つの観点である。

(イ) 国防軍備等ヲ強調セル教材

(ロ) 戦意昂揚ニ関スル教材

(ハ) 国際ノ和親ヲ妨グル虞アル教材

(ニ) 戦争終結ニ伴フ現実ノ事態ト著ク遊離シ又ハ今後

ニ於ケル児童生徒ノ生活体験ト甚シク遠ザカリ

教材トシテノ価値ヲ減損セル教材

(ホ) 其ノ他承諾必謹ノ点ニ鑑ミ適当ナラザル教材

削除した教材を補充する場合は、「国体護持、道義確立ニ関スル教材、文化国家ノ国民タルニフサハシキ教養、躰等ニ関スル教材、農産増強ニ関スル教材、科学的精神啓培竝ニ其ノ具現ニ関スル教材、体育衛生ニ関スル教材、国際平和ニ関スル教材等ヲ夫々ノ教科科目ノ立場ヨリ土地ノ状況、時局ノ現実ニ稽ヘテ適宜採取補充スルコト」としている。

加えて、国民学校後期用国語教科書について、削除すべき教材、取扱上注意を要する教材を具体的に列挙している。

なお、本稿では、後述する表1及び表2において「初等科国語」六と「初等科国語」八の二つの初等科国語教科書について、第1回指令が削除または取扱上注意を要する教材としたものを明記した。

また、第1回指令は、占領軍の指示ではなく、文部省の独自の判断で行われたことを記しておきたい。占領軍の司令で教科書への墨塗りが開始されたと解している場合があるからである。<sup>(9)</sup>  
<sup>(10)</sup>

## (2) 昭和21年1月25日教科書局長通牒「国民学校後期使用図書中ノ削除修正箇所ノ件」

本通牒<sup>(11)</sup>(以下、第2回指令と記す)は、その本文中に「連合国軍最高司令部ノ承認ヲ得決定致シタル」とあるように、占領軍GHQ/SCAPの意向を受けたものである。また、国民学校後期使用国語(初等科第一学年乃至高等科第一学年用)及び算数(初等科第三学年乃至第六学年用)について具体的に削除修正箇所を示している。

中村は第1回指令と第2回指令とを比較し、第2回指令で新たに全文削除を指示された教材として、皇室や神道に関するもの、歴史的な戦記物があるとしている。<sup>(12)</sup>

なお、本稿では、第2回指令について後述する表1及び表2において「初等科

国語」六と「初等科国語」八の二つの初等科国語教科書について、削除または修正指示教材となった箇所を明記した。

#### 4. 墨塗り教科書の実情

##### (1) 教科書現物の墨塗り箇所

実際に墨塗り（切り取り、紙貼りも含む）された教科書現物の墨塗り（切り取り、紙貼り）箇所を各表に明示した。「初等科国語」六と「初等科国語」八については、第1回指令、第2回指令それぞれの削除指示箇所、取扱注意箇所、修正指示箇所を示した（表1及び表2）。

なお、「初等科国語」五、「初等科国語」七については、毎年春から夏に使用されていることから、第1回指令、第2回指令では共に具体的な削除・修正指示箇所は示されていない。だが、実際には、墨塗り教科書現物が存在する。墨塗り・削除の実情を示した（表3及び表4）。

墨塗り指令がない「初等科国語」五や七の墨塗りされた可能性の根拠となる文書として、昭和21年6月6日付発教第63号文部省教科書局長通牒「教科用図書の使用について」<sup>(13)</sup>がある。「輸送事情によってまだ届かない間はその科目については、これまでの教科書に、所要の削除訂正を施し便宜使用して差し支えない。」としている。

寺嶋は大阪府枚方市へこの通牒が昭和21年6月20日付北地教第166号によって移牒されたことを紹介している。<sup>(14)</sup>

また、筆者が西予市開明学校で閲覧した文書綴の中にも同趣旨のものがあった。東宇和地方事務所長名昭和21年6月15日付視第171号文書「教科書の使用について」である。

昭和21年度は、新たに発行された暫定教科書が使用されているべきだが、当時の輸送事情から児童・生徒に暫定教科書が行き渡らなかった。このため、「初等科国語」五、七などの春から夏に使用される教科書が昭和21年春から夏に墨塗りして使用されていたことが推測されるのである。中学校の例であるが横浜一中で昭和21年4月以降、墨塗り教科書を使用したという証言がある。<sup>(15)</sup>

昭和21年7月20日付発教第87号文部省教科書局長通牒「国民学校・青年学校

<sup>(16)</sup>  
 中等学校師範学校及び青年師範学校において使用する教科用図書に関する件通牒」  
 は、「本通牒を以て旧教科書の使用は八月一日以降一切禁止されること」になった  
 旨、発している。すなわち、墨塗り教科書は使われなくなる。

(2) 墨塗り指令（第 1 回指令、第 2 回指令）と現物との対応：「初等科国語」六と  
 「初等科国語」八

①「初等科国語」六（表 1）

裏表紙に「初五 山口拓也」と記載されている。一度製本を解いたのか、製本テー  
 プの色が通常のえんじ色のテープとは異なり、黄土色のテープとなっている。

第 1 回指令が「削除すべき教材又ハ取扱上注意スル教材」として指定した教材は、  
 墨塗り教科書現物においても全て削除されている。

表 1. 「初等科国語」巻六の削除・修正箇所

「初等科国語」 六目録		第 1 回指令 (昭和 20 年 9 月 20 日) の削除指示 箇所	第 2 回指令（昭和 21 年 1 月 25 日）の 削除・修正指示箇所				墨塗り教科書現物での扱い			
頁	教材名		頁	行	原文	修正文	頁	行	削除の 仕方	備考
[2]		目録	[2]				[2]			
[3]		目録	[3]				[3]			
4-9	一	明治神宮	4-9		全文	削除	4-9			
9-14	二	水兵の母	9-14		全文	削除	9	8-9	墨塗り	7 行目記載の教材 名「二 水兵の母」 は墨塗りせず。枠 外にある教材名 「二 水兵の母」 は墨塗りせず。
							10		墨塗り	教材本文を全面墨 塗り。枠外にある 教材名「二 水兵 の母」は墨塗りせ ず。
							11-14		切り取り	
15-20	三	姿なき入城	15-20		全文	削除	15-18		切り取り	
							19		墨塗り	教材本文を全面墨 塗り。枠外にある 教材名「三 姿な き入城」は墨塗り せず。
							20	1-2	墨塗り	
20-26	四	稲むらの火	20-26				20-26			

26-33	五	朝鮮のゐなか	取扱上注意 ヲ要スル教 材	26-33		全文	削除	26	9		9行目記載の教材 名「五 朝鮮のゐ なか」は墨塗りせ ず
								27-32		切り取り	
								33	1-10	墨塗り	教材本文を全面墨 塗り。枠外にある 教材名「五 朝鮮 のゐなか」は墨塗 りせず
34-43	六	月の世界						34-43			
43-47	七	柿の色						43-47			
48-52	八	初冬二題		49	9	今は部隊長に なつて、	今は轉任し て、	48-52			
				50	1	戦地へ行つて ゐるをぢさん	遠くへ行つ てしまつた をぢさん				
52-57	九	十二月八日	削除スベキ 教材	52-57		全文	削除	52	2-9	墨塗り	2行目記載の教材 名「九 十二月八 日」も墨塗り。枠 外にある教材名 「九 十二月八日」 は墨塗りせず
								53-57		切り取り	
58-73	十	不沈艦の最期	削除スベキ 教材	58-73		全文	削除	58-72		切り取り	
								73	1	墨塗り	
73-82	十一	世界一の織機		73		題名 世界一 の織機	豊田佐吉ト 改ム	73-82			
				80頁2行目 から 82頁3行目 まで		明治三十八年 は……かれの 上にかがやい た。	削除				
82-97	十二	水師營		82-97		全文	削除	82	9		9行目記載の教材 名「十二 水師營」 は墨塗りせず。枠 外にある教材名 「十二 水師營」 は墨塗りせず
								83-96		切り取り	
								97	1-10	墨塗り	教材本文を全面墨 塗り。枠外にある 教材名「十二 水 師營」は墨塗りせ ず
98	十三	元日や		98		十三「元日や」 の題名	「頂一つ」ト 改ム	98			
					1	元日や一系の 天子不二の山 鳴雪	削除				
99-114	十四	源氏と平家		99-114		全文	削除	99-114			

114-118	十五	漢字の音と訓		115	7-8	「宮城」「神宮」「宮殿」「龍宮」の宮は、「きゆう」「ぐう」「く」などいろいろな音で読みます。	114-118			
118-126	十六	塗り物の話					118-126			
126-127	十七	ばらの芽		127	9-10	國こぞり心ひとつにふるひ立つ云々の歌一首	126-127			
128-134	十八	敵前上陸	削除すべき教材	128-134		全文	128		墨塗り	1行目記載の教材名「十八 敵前上陸」も「十八」という文字は墨塗りしないが「敵前上陸」という文字を墨塗り。枠外にある教材名「十八 敵前上陸」は墨塗りせず
							129-134		切り取り	
134-142	十九	病院船	取扱上注意ヲ要スル教材	134-142		全文	134-140		切り取り	
							141	1-10	墨塗り	教材本文を全面墨塗り。枠外にある教材名「十九 病院船」は墨塗りせず
							142	1-2	墨塗り	
142-153	二十	ひとさしの舞		142-153	3-9	全文	142-153			
154		[新出漢字と出現頁]								
附録 1-8	附録 一	土とともに					附録 1-8		切り取り	
附録 8-13	附録 二	愛路少年隊					附録 8-13		切り取り	
附録 14-24	附録 三	胡同風景					附録 14-24		切り取り	
		[奥付]								

注：

- ・墨塗り教科書は松宮哲夫所蔵。昭和18年9月15日翻刻発行 大阪書籍翻刻発行 裏表紙に「初五 山口拓也」との記載あり。
- ・第1回指令（昭和20年9月20日）、第2回指令（昭和21年1月25日）の削除・修正指示箇所も明記した。
- ・「初等科国語」巻六現物の教材文は縦書きで記述されている。
- ・角ガッコ □ で囲んだ箇所は筆者が補記説明した記述である。
- ・第2回指令では削除・修正指示箇所を指示する際、行まで指示している箇所がある。下記での第2回指令の行については第2回指令の指示する通りに記した。
- ・「墨塗り教科書現物での扱い」においては行をカウントする際は墨塗りされていないもの「初等科国語」巻六（原本：昭和18年8月29日翻刻発行 日本書籍翻刻発行 大空社 昭和60年複製）と対象しながら文字記載行をカウントしている。

「二 水兵の母」は「削除すべき教材」とされたもの。日清戦争時の軍艦高千穂艦上での話。戦意昂揚教材。(写真1、写真2)

「三 姿なき入城」は「削除すべき教材」とされたもの。韻文教材。ランゲーンが日本軍の手に落ちた際、ランゲーン第一回爆撃時に戦死した息子を母親が讃えている。戦意昂揚教材。

「五 朝鮮のみなか」は「取扱上注意ヲ要スル教材」とされたもの。牧歌的な描写ではあるが、一郎と貞童という二人の少年の遊ぶ様子、朝鮮の民族衣装を着た母と娘が日本語で会話する様子など。日本が朝鮮半島を併合していた時代は終わった。戦争終結に伴う現実の事態と著く遊離した教材に該当するか。

「九 十二月八日」は「削除すべき教材」とされたもの。昭和16年12月8日太平洋戦争開戦の日を振り返る少年の話である。戦意昂揚教材。

「十 不沈艦の最期」は「削除すべき教材」とされたもの。イギリス軍艦を攻撃する日本軍の様子を描く戦意昂揚教材。

「十八 敵前上陸」は「削除すべき教材」とされたもの。マライのコタバルを目指す日本軍の戦闘の様子を描く戦意昂揚教材。

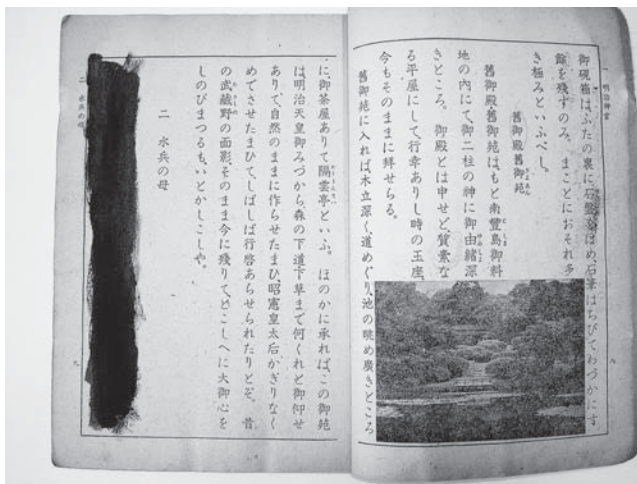


写真1 「初等科国語」六墨塗り教科書 [個人蔵]

9頁「二 水兵の母」という教材名は墨塗りされていない。本文のみ墨塗り。





写真2 「初等科国語」六墨塗り教科書 [個人蔵]

右頁は10頁。左頁は19頁。いずれも墨塗り。11頁から18頁は切り取り。

「十九 病院船」は「取扱上注意ヲ要スル教材」とされたもの。負傷兵を乗せた病院船内の様子を看護する人の立場から描写。国防軍備教材にあたろう。

第2回指令で新たに全文削除と指示された箇所でも今回調査した現物でも墨塗り・削除されている教材は「十二 水師營」である。日露戦争終結時の乃木大将とスッテッセル將軍の会見の様子を描いている。

2回のいずれの墨塗り指令でも削除・修正対象ではないが切り取り削除されている箇所。「附録一 土とともに」「附録二 愛路少年隊」「附録三 胡同風景」として巻末にある教材。なお、井上はこの附録について、「(軍部囑託は) 上学年に進むに従い、当時第一線にあった文学者の報道記事中優秀なものなどを提出してくるようになりましたので、これらをできるだけ厳選し、しかもなるべく本教材として取り扱わぬよう、国語読本の付録の欄を設け、補助教材として二、三編ずつ掲載する<sup>(17)</sup>ような方法を講じたのであります。」と記している。

第2回指令と照らし合わせた時、第2回指令で削除・修正指示されている箇所であるが墨塗り教科書現物では削除されていない箇所は次の通りである。

「一 明治神宮」。第2回目指令では全面削除対象となっている。皇室や神道に

関するもの。

「八 初冬二題」。韻文教材。第2回目指令では、「部隊長」、「戦地」という軍事的な言葉として、他の言葉への置き換えを指示している。

「十一 世界一の織機」。豊田佐吉が自動織機を作り上げるまでを描く。第2回目指令では、題名を「世界一の織機」から「豊田佐吉」と改めるように変更指示している。また、豊田佐吉が外国製の機械に対抗心をあらわし世界一の織機を作り上げる過程を描く。その外国への対抗心を懸念したのか、本箇所を第2回目指令は削除対象としているが、墨塗り教科書現物では削除も修正もしていない。

「十三 元日や」。第2回目指令は題名の変更と「元日や一系の天子不二の山鳴雪」の削除を指示している。皇室や神道に関するものとして削除対象としたと思われるが、墨塗り教科書現物では削除も修正もしていない。

「十四 源氏と平家」。第2回目指令は全文削除を指示している。平家物語からの文章。歴史的な戦記物。墨塗り教科書現物では削除していない。

現物での削除はいつ行われたのであろうか、第1回目指令以降、第2回目指令よりも前になされたのであろう。第1回目指令箇所指摘のあった箇所は全て削除している。

第2回目指令については、同指令で全文削除指示する「十二 水師營」を削除しているが、その他の第2回目指令削除修正指示箇所については全く対応していない。第1回目指示の箇所に加え、「十二 水師營」と附録教材を独自の判断で削除したのであろう。

## ②「初等科国語」八

「初等科国語」八については、松宮哲夫所蔵のもの㉔と筆者所蔵のもの㉕2点の墨塗り教科書をみた(表2)。なお、㉕の裏表紙には「金田順三」と記載されている。

### ① ㉔㉕ともに墨塗りされているもの

第1回目指令にて削除指示があるもの。

「三 ダバオへ」。ダバオ在留邦人の救出に向かう日本軍の話。戦意昂揚教材。

「十三 マライを進む」。マライを進軍する日本軍を描く。戦意昂揚教材。

「十五 シンガポール陥落の夜」。シンガポールを陥落した日本軍を描く。戦意昂揚教材。

「十六 もののふの情」。日本の潜水艦が敵対するギリシャの船を攻撃する話。戦意昂揚教材。

「二十一 太平洋」。太平洋を韻文で描く教材。「太平洋は皇國の鎮めによつてのみ、とこしへに太平の海である。」としている。なお、㊦では146頁は読める状態になっていて、147頁以降を全て切り取りしている（写真3）。㊧は146頁墨塗り、147-151頁を切り取りしている。152頁は墨塗りしている。次の153頁にある新出漢字とその掲出頁を残そうとしたからであろう（写真4）。学校現場での墨塗り指示時の教師の判断の異なりを表している。

附録教材は、墨塗り指示が出ていないが、㊦㊧共に削除している。

## ② ㊦のみ墨塗り削除しているもの

「一 玉のひびき」。短歌を掲載する教材。そのうちの、「大宮の火桶のもと寒き夜に御軍人は霜やふむらむ」の“御軍人”の箇所のみ墨塗り削除。

この教材は第2回指令で削除指示されている箇所。第2回指令では「一 玉のひびき」に掲載する他の短歌も削除指示されている。

「二 山の生活二題」の箇所に出現する「總進軍」という言葉と、「戦線に弾丸を一發でも多く送つてやりたいと思へば、いくら働いても、なほ足りないやうな氣がする。」という文を削除している。この教材も第2回指令で削除指示されている。「總進軍」の箇所は第2回指令では削除指示されていない箇所である。「戦線に弾丸を…」は第2回指令で削除指示されている箇所とである。ただし、削除範囲は第2回指示よりも狭い範囲となっている。

「十四 静寛院宮」の114頁9行目以降115頁までを切り取り削除している。英仏二国が幕末、それぞれ官軍方徳川方につき、日本を窺っていたとする記述は「国際ノ和親ヲ妨グル虞アル教材」に該当するのであろうか。切り取り削除されている。この教材も第2回指示の削除指示箇所。同指示に比して若干削除範囲が狭い。

## ③ 第2回指令で削除・修正指示された教材に対応する箇所で、現物㊦㊧では削除・修正されていないもの

表 2. 「初等科国語」ハの削除・修正箇所

「初等科国語」八目録			第1回指令（昭和20年9月20日） の削除指示箇所	第2回指令（昭和21年1月25日）の削除・修正指示箇所			
頁	教材名			頁	行	原文	修正文
[2]		目録					
[3]		目録					
4-6	一	玉のひびき		4	6-8	大正天皇御製 としどしにわが日の本のさ かゆくもいそしむ民のあれ ばなりけり	削除
				5	3-5	明治天皇御製 いにしへのふみ見るたびに 思ふかなおのがをさむる國 はいかにと	削除
				6	7-9	廣前に玉串とりてうねび山 たかきみいつをあふぐ今日 かな。  大宮の火桶のもとも寒き夜 に御軍人は霜やふむらむ。	削除  削除
7-19	二	山の生活二題		7	5	集合した鑑員は、東方へ 向って整列する。鐵かぶと に似た帽子をかぶり……	集合した鑑員は鐵 かぶとに似た帽子 をかぶり……
				7	8	厳かな國民儀禮を行つたの ち、いつせいに體操をする。	坑道へはいる 前 に、みんないつせ いに體操をする。
				8頁9行目-9頁 1行目		坑口には、大きな神棚があ つて……と心から祈る。	削除
				10	6-7	彈丸になり……この鑽石の 中に眠つてゐるのだ。	削除
				10	8	日本を守つてくれる寶が	日本をゆたかにす る寶が、
				13	4-6	なれないどころか……なほ 足りないやうな氣がする。	削除

墨塗り教科書㉔現物での扱い				墨塗り教科書㉔現物での扱い			
頁	行	削除の仕方	備考	頁	行	削除の仕方	備考
				[2]	4	ダバオへ 教材名の先頭に鉛筆で×印を記す	
				[3]	2	マライを進む 教材名の先頭に鉛筆で×印を記す	
					4	シンガポール陥落の夜 教材名の先頭に鉛筆で×印を記す	
					5	もののふの情 教材名の先頭に鉛筆で×印を記す	
					10	太平洋 教材名の先頭に鉛筆で×印を記す	
						[左端空白箇所]「×ハヌカス」と鉛筆で記載	
				4-6			
6	9	御軍人 を墨塗り					
				7-19			
9	4	總進軍 を墨塗り					
13	5-6	か、戦線に弾丸を一發でも多く送つてやりたいと思へば、いくら働いても働いても、なほ足りないやうな気がする。を墨塗り					

20-24	三	ダバオへ	削除すべき教材	20-24		全文	削除
24-36	四	孔子と顔回		24-36			
36-39	五	奈良の四季		36-39			
39-47	六	萬葉集		39 頁から 42 頁 3 行目		今を去る千二百年の昔…… 國民的感激に満ちあふれた ものが多い。	削除
				42	4-5	有名な歌人、柿本人麻呂や、 山部赤人の作も、また萬葉 集によつて傳へられてゐ る。	有名な歌人、柿本人麻呂や、山部赤 人の作は萬葉集によつて傳へられて ゐる。
47-57	七	修行者と羅刹		47-57			
58-64	八	國法と大慈悲		58-64			
65-74	九	母の力		65-74			
74-77	十	鎌倉		74-77		全文	削除
77-87	十一	末廣がり		77-87			
88-101	十二	菊水の流れ		88-101	1-9	全文	削除
101-107	十三	マライを進む	削除すべき教材	101-107		全文	削除
107-115	十四	靜寛院宮		114 頁 8 行目以 下		小題五以下全文	削除
116-119	十五	シンガポール陥落の 夜	削除すべき教材	116-119		全文	削除
119-128	十六	もののふの情	削除すべき教材	119-128		全文	削除
128-134	十七	太陽		128-134			
134-135	十八	梅が香		134-135			
135-141	十九	雪國の春		135-141			

20		墨塗り	枠外にある教材名 「三 ダバオへ」 も墨塗り	20		墨塗り	枠外にある教材名 「三 ダバオへ」 も墨塗り
21-22			切り取り	21-22			切り取り
23			枠外にある教材名 「三 ダバオへ」 は墨塗りせず	23		墨塗り	枠外にある教材名 「三 ダバオへ」 も墨塗り
24	1-5		墨塗り	24	1-5	墨塗り	
24-36				24-36			
36-39				36-39			
39-47				39-47			
47-57				47-58			
58-64				58-64			
65-74				65-74			
74-77				74-77			
77-87				77-87			
88-101				88-101			
101	5-9	切り取り		101	5-9	墨塗り	枠外にある教材名 「十三 マライを 進む」も墨塗り
102	1-6	切り取り		102		墨塗り	枠外にある教材名 「十三 マライを 進む」も墨塗り
103-106		切り取り		103-106		切り取り	
107	5	墨塗り	1-4 行目墨塗りせず	107	1-5	墨塗り	
				107-115			
115	3-9	切り取り					
116	1-7	切り取り		116		墨塗り	枠外にある教材名 「十五 シンガポ ール陥落の夜」も 墨塗り
	8-9	墨塗り					
117-119		切り取り		117-119		切り取り	
119-126		切り取り		119-126		切り取り	
127	1-2	墨塗り		127	1-3	墨塗り	
127	3-10	切り取り		127	4-10	切り取り	
128	1-6	切り取り		128	1-6	切り取り	
128	7	切り取り	7 行目「十七 太 陽」切り取られて いる	128-134			
134-135				134-135			
135-141				135-141			

141-145	二十	國語の力		144	5-8	わが國は、神代このかた万世一系の……現在に及んでゐる。だから、	削除
146-151	二十一	太平洋	削除すべき教材	146-151		全文	削除
152		[新出漢字と出現頁]		152			
附録1-8	附録一	熱帯の海					
附録8-12	附録二	洋上哨戒飛行					
附録13-18	附録三	レキシントン撃沈記					
附録18-24	附録四	珊瑚海の勝利					
		[奥付]					

- ・墨塗り教科書㉗は松宮哲夫所蔵。昭和18年8月29日翻刻発行 大阪書籍翻刻発行
- ・墨塗り教科書㉘は筆者所蔵。昭和18年8月29日翻刻発行 大阪書籍翻刻発行。裏表紙に「金田順三」との記載あり。
- ・「初等科国語」八現物の教材文は縦書きで記述されている。
- ・角ガッコ [] で囲んだ箇所は筆者が補記説明した記述である。
- ・第2回指令では削除・修正指示箇所を指示する際、行まで指示している箇所がある。上記での第2回指令の行については第2回指令の指示する通りに記した。
- ・「墨塗り教科書現物での扱い」においては行をカウントする際は墨塗りされていないもの「初等科国語」八（原本：昭和18年8月15日翻刻発行 日本書籍翻刻発行 大空社 昭和60年複製）と対象しながら文字記載行をカウントしている。

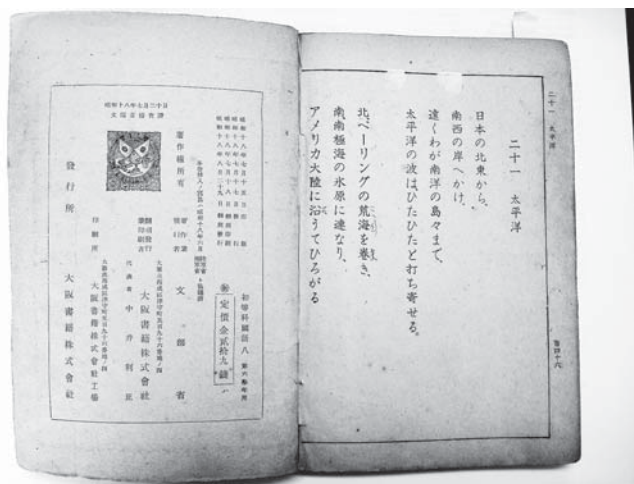


写真3 「初等科国語」八墨塗り教科書㉗ [個人蔵]

右頁は146頁。本文を読み取れる。裏面の145頁は削除対象教材ではないため146頁を切り取らず残したと推測。  
左頁は奥付。147頁以降152頁までと附録ノ頁以降24頁までの全ての頁を切り取り。



141-145				141-145			
146				146	墨塗り	枠外にある教材名「二十一 太平洋」も墨塗り	
147-150	切り取り			147-150	切り取り		
151	切り取り			151	墨塗り	枠外にある教材名「二十一 太平洋」を墨塗りせず	
152	切り取り						
附録 1-8	切り取り			附録 1-8	切り取り		
附録 8-12	切り取り			附録 8-12	切り取り		
附録 13-18	切り取り			附録 13-18	切り取り		
附録 18-24	切り取り			附録 18-24	切り取り		



写真 4 「初等科国語」 八墨塗り教科書④ 【個人蔵】

右頁は 146 頁。墨塗り。

左頁は 151 頁。1 行だけある記述を墨塗り。裏面の 152 頁は新出漢字と掲出頁が墨塗りされずにある。この頁を残そうとした。

「一 玉のひびき」に掲載されている短歌4首。うち、一首については前述の通り「御軍人」という文字のみ墨塗りされた。

「二 山の生活二題」は第2回指令の指示する5箇所が削除・修正されていない。

「六 萬葉集」は第2回指令の指示箇所が削除されていない。

「十 鎌倉」、「十二 菊水の流れ」も全く削除されていない。

「二十 國語の力」の第2回修正指示箇所も全く修正されていない。

以上の①②③から、「初等科国語」八においても第1回指令と第2回指令の間に現物への墨塗りが施されたことが推測される。第2回指示の多くが墨塗り教科書現物においては反映されていないからである。

### (3) 墨塗り指令がないが墨塗りされている教科書：「初等科国語」五及び七

#### ①「初等科国語」五の墨塗り教科書（表3）

本墨塗り教科書は愛媛県西予市開明学校が所蔵し展示している教科書である。裏表紙に「初五 信宮克行」と記載されている。

目次（「初等科国語」五においては“目録”と表記）において削除対象になった教材箇所を墨塗りで抹消している（写真5）。

以下、削除教材を見る。

「一 大八洲」は韻文教材。皇室や神道に関する教材に該当する。

「三 木曾の御料林」。この教材も皇室や神道に関する教材に該当する。

「四 戦地の父から」は戦場にいる父から子への手紙文。戦意昂揚教材に該当する。

「五 スレンバンの少女」はマライの町スレンバンの町に日本軍が出会った少女の話。戦意昂揚教材に該当する。

「九 軍艦生活の朝」は、起床から午前八時軍艦旗掲揚までの、艦乗組員の朝の活動を描く。国防軍備教材に該当する。

「十八 飛行機の整備」は、子ども会常会で話す戦闘機整備兵による話。子どもとの会話形式になっている。国防軍備教材に該当する。

「十三 はくの子馬」では、86頁9行目“けれども、北斗は”の箇所が墨塗りさ

表 3. 「初等科国語」五の削除・修正箇所

「初等科国語」五目録			墨塗り教科書現物での扱い			
頁	教材名		頁	行	削除の仕方	備考
[2]	目録		[2]	2	一 大八洲 を墨塗り	
				4	三 木曾の御料林 を墨塗り	
				5	四 戦地の父から を墨塗り	
				6	五 スレンパンの少女 を墨塗り	
				7	六 晴れたる山 を墨塗り	
				8	七 → 三 表記の修正	
				9	八 → 四 表記の修正	
				10	九 軍艦生活の朝 を墨塗り	
				11	十 → 五 表記の修正	
[3]	目録		[3]	1	十一 → 六 表記の修正	
				2	十二 → 七 表記の修正	
				3	十三 → 八 表記の修正	
				4	十四 → 九 表記の修正	
				5	十五 → 十 表記の修正	
				6	十六 → 十一 表記の修正	
				7	十七 → 十二 表記の修正	
				8	十八 飛行機の整備 を墨塗り	
				9	十九 → 十三 表記の修正	
				10	二十 → 十四 表記の修正	
4-7	一	大八洲	4			
			5-6		切り取り	
			7			
7-9	二	弟橘媛	7-9			
9-18	三	木曾の御料林	9			
			10		墨塗り	教材本文を全面墨塗り。枠外にある教材名「三 木曾の御料林」のうち「木曾の御料林」も墨塗り
			11-18		切り取り	
18-26	四	戦地の父から	18-26		切り取り	
26-35	五	スレンパンの少女	26-35		切り取り	
35-37	六	晴れたる山	35-36		切り取り	
			37	1-7	墨塗り	教材本文を全面墨塗り。枠外にある教材名「六 晴れたる山」のうち「晴れたる山」も墨塗り
38-45	七	ことばと文字	38-45			
45-51	八	海の幸	45-51			

52-57	九	軍艦生活の朝	52		墨塗り	教材本文を写真図版も含め全面墨塗り。枠外にある教材名「九 軍艦生活の朝」のうち「軍艦生活の朝」も墨塗り
			53-56		切り取り	
			57	1-6	墨塗り	
57-69	十	武士のおもかげ	57-69			
70-72	十一	かんこ鳥	70-72			
72-77	十二	炭焼小屋	72-77			
78-87	十三	ぼくの子馬	86	9	けれども、北斗は、を墨塗り	
87-94	十四	星の話	87-94			
94-101	十五	遠泳	94-101			
102-104	十六	海底に行く	102-104			
104-108	十七	秋のおとづれ	104-108			
108-121	十八	飛行機の整備	108	3-9	墨塗り	枠外にある教材名「十八 飛行機の整備」も墨塗り
			109-120		切り取り	
			121	1-4	墨塗り	
121-122	十九	動員	121-122			
122-137	二十	三日月の影	122-137			
138		[新出漢字と出現頁]	138			
附録 1-9	附録一	「あじあ」に乗りて	附録 1-9			
附録 10-17	附録二	大地を開く	附録 10-17			
附録 18-22	附録三	草原のオボ	附録 18-22			
		[奥付]				

注：

- ・墨塗り教科書は開明学校（愛媛県西予市）所蔵。昭和 18 年 1 月 25 日翻刻発行 大阪書籍 翻刻発行 裏表紙に「初五 信宮克行」との記載あり。
- ・「初等科国語」七現物は教材文は縦書きで記述されている。
- ・角ガッコ [] で囲んだ箇所は筆者が補記説明した記述である。
- ・「墨塗り教科書現物での扱い」においては行をカウントする際は墨塗りされていないもの「初等科国語」巻五（原本：昭和 18 年 1 月 13 日翻刻発行 東京書籍翻刻発行 大空社 昭和 61 年複製）と対象しながら文字記載行をカウントしている。

れている。この言葉自体に墨塗る必要性は感じないが、その後に“きつと軍馬に買ひあげられるに違ひありません。さうしてりつばな乗馬になり軍人さんを乗せて堂々と歩くでせう。”とつづいている。“けれども、北斗は”以下を削除するためにこの箇所を墨塗りしたのでらうか。

一方、この墨塗り教科書では前述 2 回の墨塗り指令からすると墨塗られても仕方がないが墨塗りされていない箇所があった。列挙する。

「二 弟橘媛」は神話教材。

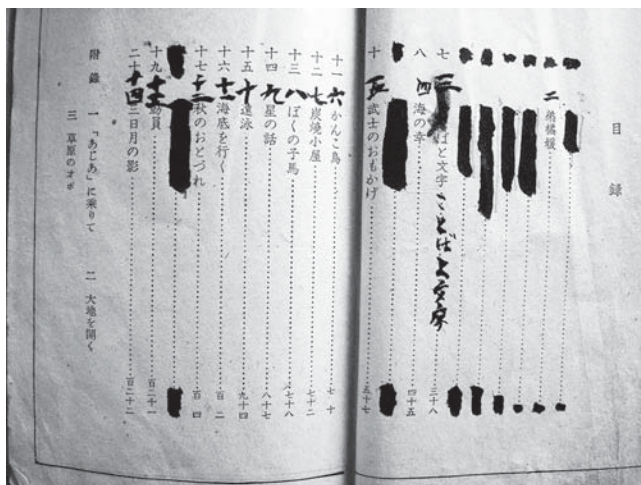


写真5 「初等科国語」五墨塗り教科書 [開明学校所蔵]

“目録”と記されているが目次の意。目次頁も徹底して墨塗りしている。

「六 晴れたる山」には短歌七首を掲載しているが、明らかに中国を進軍する日本兵という想定で記載されている短歌がある。

- ・すがやかに晴れたる山をあふぎつつわれ御軍の一人となりぬ
- ・父母の國よさらばと手を振ればまなぶた熱しますら男の子も
- ・江南のしらじら明けを攻め進むすめら御軍うしほのごとし
- ・蘇州までさへぎる山も岡もなしはるばるかすみ水牛あゆむ
- ・わらべらはちひさき笑顔ならべつつ兵に唱歌ををそはりてゐる

戦意昂扬教材と考えるが、墨塗りされなかった。

「十九 動員」。俳句七句から成る。

- ・動員の第一夜なり明けやすき
- ・秋晴れや旗艦にあがる信號旗
- ・敵前に上陸すなり秋の雨
- ・突撃を待つ草むらに虫すだく
- ・敵遠し月の廣野のはてしなく

これらの句も戦意昂扬教材と考えるが、墨塗りされていない。なお、松宮は上

記俳句を「戦陣俳句」と位置付け、日本文学報国会俳句部会が教科書俳句検討に関する委員を決めたことなど、「初等科国語」の俳句についての研究がある。<sup>(18)</sup>

「十 武士のおもかげ」、「二十 三日月の影」は第2回指令の歴史的な戦記物に該当するが、墨塗りされていない。

「八 海の幸」では、「小型の潜水艦を思はせるやうな、まるまると太ったまぐろ」、「魚雷のやうなかじきまぐろ」、「小型の爆弾のやうなかつを」という表現が出現するが、墨塗りされていない。

「初等科国語」各巻末の附録教材は調査した他の墨塗り教科書現物では切り取られていたが、本調査対象現物では掲載する「附録一「あじあ」に乗りて」、「附録二 大地を開く」、「附録三 草原のオボ」は切り取り削除等されていない。

## ②「初等科国語」七の墨塗り教科書（表4）

本墨塗り教科書は松宮哲夫所蔵のもの㊦と筆者所蔵のもの㊧の2点を調査した。2点共に現物に使用者氏名は記載されていない。

### ① ㊦㊧両者の特徴

㊦は墨塗り又は切り取り・紙貼りににより教材削除が行われている（写真6）が、㊧は紙貼り又は切り取りによって教材削除が行われている（写真7）。なお、㊧は、一度製本を解いたのであろうか、製本テープの色が通常のえんじ色のテープとは異なり、緑色のテープとなっている。

### ② ㊦㊧の両者ともに削除されている教材

「二 永久王」は陸軍砲兵大尉となった北白川宮永久王について描く。皇室教材であり、また戦意昂扬教材としての役割をもったもの。

「八 日本海海戦」は日露戦争の日本海海戦を描く。国防軍備教材であり、戦意昂扬教材ともいえる。

「十七 いけ花」は中国大陸（満州）の開拓地にいる人物（女性だろうか）からまさえさんという少女への手紙文。戦争終結に伴って現実の事態と著しく遊離した教材となろうか。また、文中、「大東亞戦争を戦ひぬくことができる」等の戦意昂扬箇所がある。

表 4. 「初等科国語」七の削除・修正箇所

「初等科国語」七目録			墨塗り教科書㊦現物での扱い				墨塗り教科書㊣現物での扱い				
頁	教材名		頁	行	削除の仕方	備考	頁	行	削除の仕方	備考	
[2]		目録	[2]	3	永久王 を 墨塗り		[2]				
				4	御旗の影 を 墨塗り						
				9	日本海海戦 を 墨塗り						
[3]		目録	[3]	7	ゆかしい心 を 墨塗り		[3]				
				9	古事記 を 墨塗り						
				10	御民われ を 墨塗り						
				11	附録 一 ジャワ風景 二 ビスマルク 諸島 を いずれも墨 塗り						
				12	三 セレベスの ぬなか 四 サラワクの 印象 を いずれも墨 塗り						
4-6	一	黒龍江の解氷	4-6				4-6				
7-16	二	永久王	7-16		切り取り		7-16		紙貼り	7 頁と 16 頁 は紙を上か ら貼る。 8-15 頁は頁 同士を糊付 けしたか？	
16-24	三	御旗の影	16-24		切り取り		16-24				
25-32	四	敬語の使ひ方	25-32				25-32				
32-34	五	見わたせば	32-34				32-34				
34-46	六	源氏物語	34-46				34-46				
46-51	七	姉	46-51				46-51				
51-57	八	日本海海戦	51	5-9	切り取り	51頁該当教 材箇所のみ 切り取り	51	5-9	紙貼り	51頁該当教 材箇所につ いて紙を上 から貼る	
				52	1-6	切り取り			52-57	紙貼り	52-57頁は頁 同士を糊付 けしたか？
					7-10	墨塗り					
				53-56		切り取り					
				57		紙貼り					
58-67	九	鎮西八郎爲朝	58-67				58-67				
67-70	十	晴れ間	67-70				67-70				
70-77	十一	雲のさまざま	70-77				70-77				
77-82	十二	山の朝	77-82				77-82				
82-97	十三	燕岳に登る	82-97				82-97				
97-101	十四	北千島の漁場	97-101				97-101				

102-105	十五	われは海の子	102-105				102-105			
105-114	十六	月光の曲	105-114				105-114			
114-120	十七	いけ花	114	5-9		この箇所、墨塗り・紙貼り等の対応せず	114	5-9		この箇所、墨塗り・紙貼り等の対応せず
			115-120		切り取り		115-120		切り取り	
120-125	十八	ゆかしい心	120-124		切り取り		120-124		切り取り	
			125	1-7			125	1-7		この箇所、墨塗り・紙貼り等の対応せず
125-126	十九	朝顔に	125-126		切り取り		125-126			
126-132	二十	古事記	126-132		切り取り		126-132			
132-135	二十一	御民われ	132-135		切り取り		132-135			
136		[新出漢字と出現頁]			切り取り		136			
附録 1-6	附録一	ジャワ風景	附録 1-6		切り取り		附録 1-6		切り取り	
附録 6-13	附録二	ビスマルク諸島	附録 6-13		切り取り		附録 6-13		切り取り	
附録 13-18	附録三	セレベスのみなか	附録 13-18		切り取り		附録 13-18		切り取り	
附録 19-27	附録四	サワラクの印象	附録 19-26		切り取り		附録 19-26		切り取り	
			附録 27				附録 27		紙貼り	
		[奥付]			切り取り					

注：

- ・㊦墨塗り教科書は松宮哲夫所蔵。奥付頁が切り取られているが昭和 18 年以後翻刻発行。
- ・㊩墨塗り教科書は筆者所蔵。昭和 18 年 2 月 20 日翻刻発行 大阪書籍翻刻発行。
- ・教材文で使用された漢字は極力典拠資料に示されているものを使用した。一部の漢字は常用漢字を用いた。
- ・削除・修正箇所に掲載された図版、漢字に付与されたルビは省略した。
- ・「初等科国語」七現物は教材文は縦書きで記述されている。
- ・角ガッコ [] で囲んだ箇所は筆者が補記説明した記述である。
- ・「墨塗り教科書現物での扱い」においては行をカウントする際は墨塗りされていないもの「初等科国語」巻七（原本：昭和 18 年 2 月 28 日翻刻発行 東京書籍翻刻発行 大空社 昭和 61 年複製）と対象しながら文字記載行をカウントしている。





写真6 「初等科国語」七墨塗り教科書㉗ [個人蔵]

50 頁の教材「七 姉」は削除対象ではない。51 頁の 4 行目まで続いている。  
 51 頁は部分的に切り取られている。51 頁の途中からはじまる「八 日本海海戦」である。  
 52 頁の切り取られていない部分の裏側となる 53 頁の「八 日本海海戦」の文章を墨塗り。  
 紙貼りされているのは「八 日本海海戦」の 57 頁。

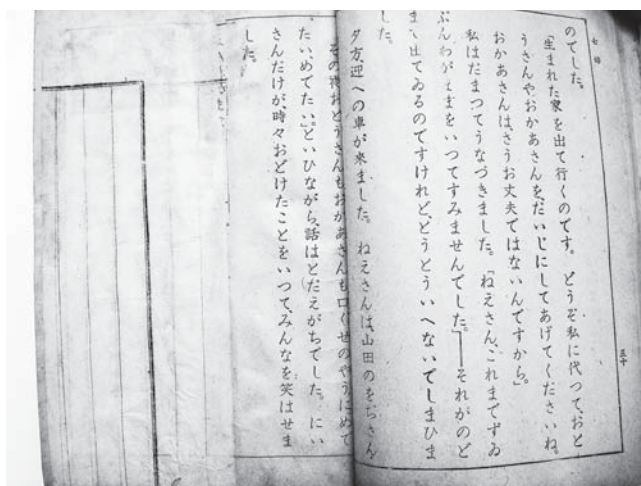


写真7 「初等科国語」七墨塗り教科書㉘ [個人蔵]

51 頁の途中からはじまる「八 日本海海戦」を紙貼り。

「十八 ゆかしい心」はフィリピンの戦場にいる兵士の日常描写。戦意昂揚教材。  
「附録一 ジャワ風景」、「附録二 ビスマルク諸島」、「附録三 セレベスのゐなか」、「附録四 サラワクの印象」は㊦㊩とも切り取り削除されている。

次に㊦のみ削除された教材を列挙する。

「三 御旗の影」。足助重範、新田義貞という南朝の後醍醐天皇を支援した武士のエピソード。歴史的な戦記物教材。

「十九 朝顔に」。俳句教材。加賀千代女四句。小林一茶三句。

加賀千代女

- ・朝顔につるべ取られて もらい水
- ・木から物のこぼるる音や秋の風
- ・何着ても美しうなる月見かな
- ・ころぶ人を笑うてころぶ雪見かな

小林一茶

- ・雀の子そこのけそこのけお馬が通る
- ・やせ蛙まけるな一茶これにあり
- ・やれ打つなはへが手をする足をする

「十九 朝顔に」掲載の句が墨塗り指令の削除・修正教材の主題と合致するとは思えない。この教材を掲載する頁には前後の教材「十八 ゆかしい心」「二十 古事記」の一部分が記されている。このため一緒に削除されてしまったということであろうか。この墨塗り教科書を使用した児童は、当時の事情にともなうこととはいえ、本来触れられたはずの教材に触れることができなかったのである。

「二十 古事記」。太安萬侶が、稗田阿禮がそらんじるわが國の古傳を文字に書き表す作業について記す教材。皇室や神道に関する教材として削除したのであろう。

「二十一 御民われ」。万葉集にあらわれる歌「御民われ生けるしるしあり天地の榮ゆる時にあへらく思へば」から始まる。皇室や神道に関する教材として削除したのであろう。

第1回指令、第2回指令の趣旨からすると、墨塗り対象と考えられるものの墨塗りされなかった箇所としては

「十五 われは海の子」がある。「いで軍艦に乗り組みて、われは護らん海の國。」という文があるが、今回見た二つの現物には墨塗りがなされていない。

## 5. 結語

### (1) 「初等科国語」五・六・七・八の墨塗り教科書の現物を見て実際の削除・修正箇所調査結果

- ①「初等科国語」の六・八については第1回、第2回の二つの墨塗り指令が出されているが、第1回の内容は反映しているものの第2回の内容は反映しているとはいえない。
- ②「初等科国語」の五・七は第1回指令、第2回指令ともに対象教科書にはなっていなかったが、実際には墨塗り教科書がある。
- ③「初等科国語」の七・八については墨塗り教科書を2冊ずつ見ることが出来た。2冊ともに墨塗りされている箇所もあれば、片方にしか墨塗りされていないものもある。墨塗り教科書現物を見ていくと、学校現場では削除・修正を徹底させたと思われるものもあれば、そうでない場合もあったことが窺われた。また、丁寧に削除・修正しているものもあれば、削除・修正する必要のない教材も含め大胆に削除・修正を施している場合もあった。
- ④削除・修正箇所の各教科書の総頁数に占める割合を表に示した(表5)。最低でも31%（「初等科国語」八 筆者所蔵のもの）であった。54%の頁が削除・修正されたもの（「初等科国語」六）もあった。筆者の墨塗り教科書研究で調査した他の教科書の墨塗り頁割合からして、国語関係科目で削除・修正箇所の割合が多かった。

### (2) (1) から帰結されること

- ①文部省通牒は学校現場に十分徹底していなかった。特に第2回指令の削除指示箇所について、「初等科国語」六・八の墨塗り教科書現物と突き合わせてみると、戦記物（平家物語からの教材など）を中心に削除されていない場合が多かった。第2回指令は昭和21年1月25日に発せられたため、学校現場にこの指令が届

表 5 「初等科国語」五～八の削除・修正箇所割合

	頁数(目録+本文+附録)	墨塗り・削除・ 修正箇所の頁数	墨塗り・削除・ 修正箇所の割合(%)
「初等科国語」五	162	54	33
「初等科国語」六	180	98	54
「初等科国語」七 ㊦*	165	77	47
「初等科国語」七 ㊧*	165	56	34
「初等科国語」八 ㊦*	178	59	33
「初等科国語」八 ㊧*	178	56	31
ウタノホン上	50	4	8
うたのほん下	54	14	26
初等科習字 三	20	6	30
初等科習字 四	20	9	45
「中等文法」一	**	68	48
「中等国文」四	93	33	35
「中等家事」一	113	7	6
「中等家事」二	125	13	10

\*㊦㊧は本文並びに表 2 及び表 4 での記述に対応する

\*\*当該教科書収載の附表を除く

く頃には、既に削除指示教材を履修済みであったりしたため、墨塗りされなかったのかもしれない。あるいは、現場教員が歴史的な戦記物についてまで削除する必要はないという判断があったのであろうか。

②同じ教科書 2 冊で墨塗りによる削除・修正の箇所を比較した場合、削除・修正箇所が異なっている場合がある。学校独自の判断があった証左となる。「初等科国語」七・八の場合である。なお吉田の研究があり、そこでの事例と比較するとさらに興味深い<sup>(19)</sup>。

③「初等科国語」の削除・修正箇所の総頁数に占める割合は 31%~54% もある。国語は国民科に属し、国家が力を入れていた証拠といえる<sup>(20)</sup>。

④削除・修正指示箇所は全部が妥当なものであったのか、疑われる部分もある。平家物語に素材をとった戦記物など。また、墨塗り指令が出ていない「初等科国語」七において、小林一茶の俳句が削除されているが、戦争教材でもなく、神道に結びつく教材でもなく、削除不要と考える削除ケースであった。

- ⑤削除・修正箇所が多いということは、当事者の児童がなっていない分だけ学習不足となり、学力低下を来たしていたといえよう。<sup>(21)</sup>
- ⑥削除・修正したことは児童に精神的影響を与えた。例えば、解剖学者の養老孟司氏は「終戦で、信じさせられたことが全部ひっくりかえっちゃった。僕たち教科書にスミ塗ったんだもの。」<sup>(22)</sup>といい、また、「学校で教科書に墨を塗った経験も大きく、確実なものは何かと悩み、考えるようになりました」<sup>(23)</sup>と述べている。朝日新聞の投書欄「声」には、「敗戦で一夜にして価値観の逆転を体験し、黒塗りの教科書で学び、国家も教師も信用できないと思いました。」<sup>(24)</sup>というコメントが掲載されていた。<sup>(25)</sup>
- ⑦削除・修正を指示した教師たちにも精神的な影響を与えた。有名な例であるが作家の三浦綾子は昭和20年当時小学校教員をしており、児童たちに教科書への墨塗りをさせている。その時のことを、「墨をぬる子供たちの姿をながめながら、わたしの心は定まっていた。(わたしはもう教壇に立つ資格はない。近い将来に一日も早く、教師をやめよう。) わたしは、生徒より一段高い教壇の上にいることが苦痛であった。こうして、墨をぬらさなければならないというのは、一体どんなことなのかとわたしは思った。」<sup>(26)</sup>と書いている。
- ⑧筆者は担当講義「図書館特論」で本の歴史に関する論点の一つとして、墨塗り教科書の現物を見せて講義をしている。学生は墨塗り教科書について、小・中・高校に歴史で学んでいる場合もあるが、全く初めて知る場合もある。戦後70年を経過し、墨塗り教科書も人々の知るところでなくなる恐れがある。墨塗り教科書の存在・意味を伝承する必要を感じる。さらに墨塗り教科書を発掘し、調査を進めたい。

## 謝辞

本稿作成にあたり、松宮哲夫内蒙古師範大学客座教授にご指導・ご助言いただきました。また、貴重な墨塗り教科書を見せていただきました。1995年、大阪教育大学附属図書館勤務時にお出会いして以来の愛情あるご指導に厚く御礼申し上げます。

また、愛媛県西予市文化の里（宇和先哲記念館・開明学校・民具館・米博物館）の堀内八重統括館長には1996年に開明学校を訪問して以来、いろいろな資料についてご教示いただきました。今回も開明学校所蔵の墨塗り教科書の閲覧をお許しくださり、墨塗り教科書に関する文書の存在についてご教示いただきました。厚く御礼申し上げます。

## 注および引用文献

- (1) 菅修一. 墨塗り教科書（昭和二十 - 二十一年）の実情について. 花園史学. 第33号. pp.52-105. 2012.
- (2) 菅修一. 「中等家事」一・二の墨塗り教科書・暫定教科書の実情について. 花園大学文学部研究紀要. 第47号. pp.63-94. 2015.
- (3) 近代日本教育制度史料編纂会編纂. 近代日本教育制度史料. 第二巻. pp.219-228. 講談社. 1956.
- (4) 近代日本教育制度史料編纂会編纂. 近代日本教育制度史料. 第二巻. pp.229-258. 講談社. 1956.
- (5) 田近洵一. 国語 - 所収教科書の解説. 『複製国定教科書（国民学校期）解説』. pp.97-112. 特に p.98. ほるぷ出版. 1982.
- (6) 山住正巳. 国民学校の成立と教科書. 『複製国定教科書（国民学校期）解説』. pp.57-72. 特に pp.69-72. ほるぷ出版. 1982.
- (7) 井上越著. 古田東朔編. 『国定教科書編集二十五年』. pp.66-87. 武蔵野書院. 1984.
- (8) 文部省編纂. 『終戦教育事務処理提要』. 第一集. 復刻版. 文泉堂出版. pp.217-219. 1980.
- (9) 中村紀久二編著. 『墨ぬり教科書：解題・削除指示資料集』. 芳文閣出版部. p.6. 1985.
- (10) 三浦綾子. 『道ありき』. p.12. 主婦の友社. 1969.
- (11) 文部省編纂. 『終戦教育事務処理提要』. 第二集. 復刻版. 文泉堂出版. pp.355-370. 1980.
- (12) 中村紀久二編著. 『墨ぬり教科書：解題・削除指示資料集』. 芳文閣出版部. p.15. 1985.
- (13) 文部省編纂. 『終戦教育事務処理提要』. 第三集. 復刻版. 文泉堂出版. pp.683-684. 1980.
- (14) 寺嶋みち. 『枚方の学校教育：終戦前後を中心として』. 寺嶋みち. pp.179-180. 1998.

- (15) 松宮哲夫の聞き取りに基づく教示による
- (16) 文部省編纂.『終戦教育事務処理提要』. 第三集. 復刻版. 文泉堂出版. pp.687-688. 1980.
- (17) 井上赳著. 古田東朔編.『国定教科書編集二十五年』. p .75. 武蔵野書院. 1984.
- (18) 松宮哲夫. 国民学校の俳句. 未央. 平成 16 年 2 月号. pp.20-21. 2004.
- (19) 吉田裕久. 戦後初期国語教科書史研究. 風間書房. pp.125-182. 2001.
- (20) 松宮哲夫からの本稿作成指導時の指摘
- (21) 中村紀久二. 教科書の社会史. 岩波書店. pp.233-234. 1992.
- (22) 養老孟司. (人生の贈りもの) わたしの半生：解剖学者・養老孟司：6. 朝日新聞. 2015 年 9 月 24 日 . 夕刊.
- (23) 養老孟司. ひと：解剖学者養老孟司さん. しんぶん赤旗日曜版. 2015 年 9 月 27 日.
- (24) “墨塗り”のことを“黒塗り”という場合もある
- (25) 西澤甚一郎. (声)「1 億」の悪夢、無神経な標語. 朝日新聞. 2015 年 10 月 16 日朝刊.
- (26) 三浦綾子.『道ありき』. p.13. 主婦の友社. 1969.

